

信太山丘陵の動物相の特徴

特定非営利活動法人いずみの国の自然館クラブ 三 輪 健一郎

The fauna of the Shinodayama Hills. Kenichiro Miwa (*NPO Izumi-no-Kuni-no-Shizenkan Club*)

信太山の動物相については、湿地性・草原性のものに特徴がある。よく知られていたものとして湿地性のハッチョウトンボとカスミサンショウウオがあるが、残念ながら前者は近年確認出来ない。後者については心細いながらも何とか残っている。草原性のものでは直翅類が多いが、それ以外にはウスバカマキリの存在が大きい。大阪府では、信太山周辺で確実に確認されているが、他の地域ではかなり厳しくなっている。

哺乳類については、タヌキ、イタチ、カヤネズミ、アライグマ等が近年記録されている。数年前からイノシシらしき足跡が自衛隊の敷地内の湿地で見つかったという情報もあるが、周辺地域では見つかっていない。突然現れたとは考えにくいので、人為的な要素が考えられる。大阪府では要注目種となっている草原性のカヤネズミについては、ネザサが広がっていることの影響でかなり減っている。また変わったところではヒミズの死体が以前見つかった。

鳥類については絶滅危惧Ⅱ類のオオタカ、準絶滅危惧種のミサゴ、大阪府準絶滅危惧種のホトギス等が観察される。また池も多いことから水鳥もよく観察されている。

爬虫類については、面白いものとして大阪府要注目種のインガメが産卵の為に放浪しているのに出くわしたことがある。池で見かけるのはミシシッ

ピアカミミガメばかりなので、在来種のクサガメも期待したい。カナヘビはかなり多いが、シマヘビ等の他の爬虫類は少ない。

両生類については、大阪府絶滅危惧Ⅱ類のカスミサンショウウオの卵のうが小さな水溜り程度の湿地等で毎年なんとか観察されている。しかしながらかなり特異な場所であるので、いつ消えてしまうか分からない状態である。ニホンアカガエルは湿地周りに多い。他はヌマガエル、アマガエル、ヤモリ等。

淡水魚類では絶滅危惧Ⅱ類のメダカ、大阪府絶滅危惧Ⅱ類のドジョウが湿地周辺にいる。外来種のオオクチバスとブルーギルはほとんどの池に入っている所以魚類はあまり期待できないが、今後の調査が必要である。

昆虫類では、絶滅危惧Ⅰ類のウスバカマキリ、絶滅危惧Ⅱ類のウラナミアカシジミ、大阪府絶滅危惧Ⅱ類のアカマダラコガネ、大阪府準絶滅危惧種のハッチョウトンボ・セグロバッタなどの希少種がいる。湿地性の昆虫の代表格のハッチョウトンボについては、残念ながら2003年を最後として見つかっていない。自衛隊の敷地内については近年調査が出来ていないので期待したいところである。草原性のものとしてはウスバカマキリを代表格として、直翅目のセグロバッタ、ショウリョウバッタモドキなど多くの種類がいる。また同じく

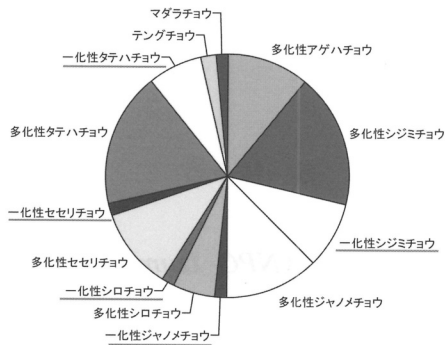


図1. 和泉市北部地域（信太山周辺）の蝶は56種類。

草原性のジャノメチョウについてはかなりの個体数が毎年見られるが、和泉市では山間部を含めても他地域での生息数はかなり少ないので、特筆に値する。また、2003年に信太山で経年調査をされている岩崎拓氏によってムラクモカレハが日本で初めて発見された。ムラクモカレハはヒマラヤ地帯、タイ、中国、台湾に分布するカレハガ科の蛾であるが、日本では信太山以外からは見つからない。一体どうやって侵入してきたのか非常に興味深い。

貝類を含む底生動物では大阪府で6例目の記録となる大阪府絶滅危惧Ⅱ類のアズキガイが2009年7月に偶然見つかった。今後の調査が待たれるところである。

和泉市は南北に長く、信太山丘陵を中心とする北部の市街地周辺、松尾寺を中心とする中央丘陵地域、槇尾山を中心とする南部山間部に、それぞれの自然が残っている。比較的によく調べられているチョウについては記録が残っているチョウ72種の内、信太山丘陵周辺では56種（図1）、中央丘陵地域では55種、南部山間部では55種（図2）となっている。三地域での共通種が40種、自然度を測る目安としての一化性、他化性のチョウの割合もかなり似た結果が出ている。

生物多様性や環境問題が日々クローズアップされている今日、和泉市は、北部・中部・南部の全

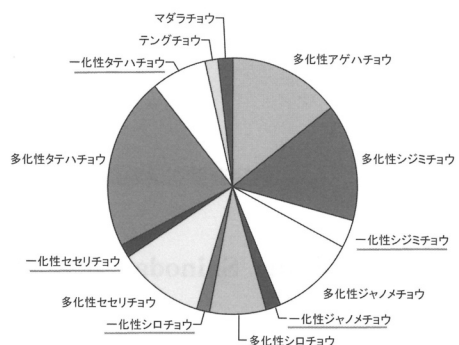


図2. 和泉市山間部の蝶は55種類。

ての地域に良質な自然を残すきわめて稀な市であると言える。その中でも最も注目すべき点は、市街地に囲まれていながらも信太山丘陵の自然度が山間部と同じレベルで生物の多様性をよく保っている所にある。ただし、その特徴である湿地性・草原性の動物相を保全するためには、環境破壊や放置した植物相の遷移が止まるように、里山環境としての整備が必要である。

最後に、シンポジウム講演に当たって鳥類の納家 仁氏、両生類の田丸八郎氏、昆虫類の岩崎 拓氏、貝類の松村 勲氏には、写真やデータの資料を貸与して頂いた。ここに記して御礼を申し上げる。

参考文献

- 岩崎 拓・黒子 浩. 2006. 信太山に日本未記録のカレハガ出現. *Nature Study*, 52 (11): 19-20.
- 大阪府（編）. 2000a. 大阪府における保護上重要な野生生物－大阪府レッドデータブック－. 442pp. 大阪府環境農林水産部緑の環境整備室, 大阪.
- . 2000b. 大阪府野生生物目録. 352pp, 大阪府環境農林水産部緑の環境整備室, 大阪.
- 大阪昆虫同好会. 2005. 大阪府の蝶. 256pp. 北東工業（株）, 大阪.